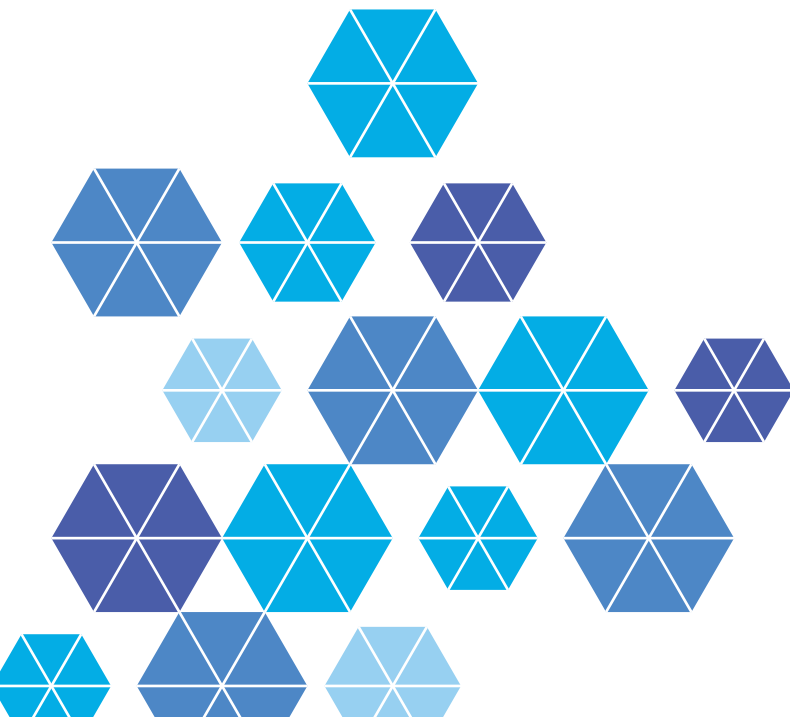
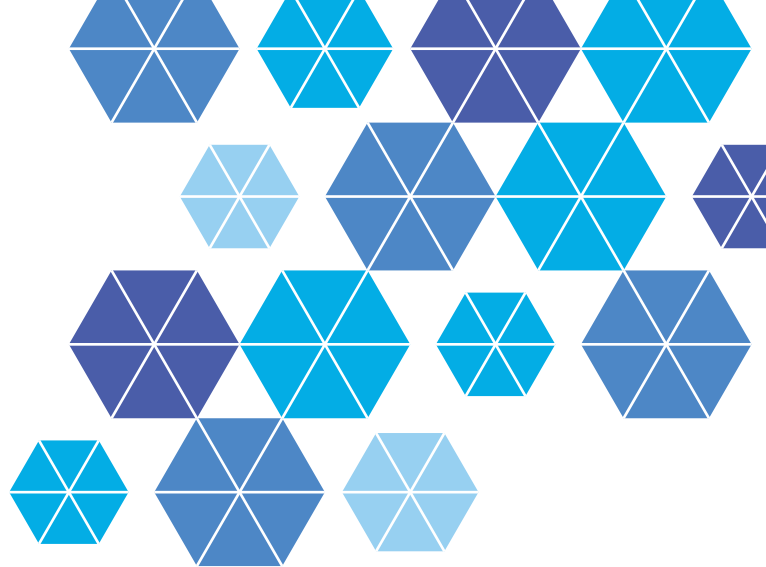




株主の皆様へ

第129期 報告書

2024年4月1日 » 2025年3月31日



Heavy Duty Sacks

Flexible Containers

Plastic Film Products

昭和パックス株式会社



下期に売上数量が 創立90周年に向けて

株主の皆様におかれましては、平素格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループ第129期（2024年4月1日～2025年3月31日）の事業概況のご報告にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。



第129期の業績について

当社グループの第129期におきましては、売上面では重包装袋部門の主力製品であるクラフト紙袋はプラスター、セメント、その他鉱産物の用途が減少する一方で、米麦、砂糖、合成樹脂の売上が回復しました。子会社の九州紙工(株)は

一部の農業関係のお客様の需要が戻り、一定の売上数量を確保できました。タイ昭和パックス(株)は現地の自動車産業が増産に転じたことから、合成樹脂が大きく伸びました。フィルム部門は農業用の育苗用、果物関係の需要が減少しました。産業用では一般幅広フィルム、ポリエチレンフィルムが増加しましたが、熱収縮包装フィルムは

伸長し、今期は増収増益を達成。 安定経営に努めます。

減少しました。コンテナ部門は米麦、セメントがふるわなかったものの、下期に入って肥料・化学品の売上数量が増えました。とりわけ1,000リットル液体容器用内袋「エスキューブ」の新規のお客様を獲得することができたことは、当期の大きな成果と言えます。利益面では原材料費などが高止まりしているものの、下期に入って売上数量が伸びたこと、原価の抑制、省エネの徹底、加えてお客様にご理解いただいて価格改定に伴う採算の良化が寄与して増益に転じました。

これらの結果、当社グループの第129期の連結業績は、連結売上高23,316百万円（前期比1,664百万円増収）、営業利益1,377百万円（同356百万円増益）、経常利益1,626百万円（同377百万円増益）、親会社株主に帰属する当期純利益1,320百万円（同357百万円増益）と、増収増益になりました。



中期経営計画の進捗状況

2022年3月期より開始した当社グループの中期経営計画「PAXXS Vision-2030」1st STAGEの3年目である2025年3月期も、計画通り開発体制、生産設備、人に投資し、企業運営基盤の整備と意識改革の推進を図りました。

この1年間に進捗が見られたものとしては「品質の追求」のプロジェクトで、近赤外カメラを用いたAI・画像センサーの導入が挙げられます。可視光カメラでは判別が難しい重包装袋のミシン目、糊塗布、折れ目、印刷仕上がりなどを、近赤外カメラを用いて検査することで不良品の検出精度が向上しました。また、2020年より製造設備のデジタル化を進めてまいりましたが、2025年8月に計画の最後と

Top Interview

なる防府工場のピンチ製造ラインに最新設備を導入いたします。「仕事に自信を」のプロジェクトでは、製造工程や検査工程を収録した動画を活用しています。これは人手不足が続く中、技術を継承し、若手社員の育成を目的に導入したのですが、熟練社員が若手社員に動画を見せながら説明することで理解度が早まっています。すでに運営を開始した富山・盛岡・亀山の各工場で成果が上がっており、来期は掛川工場でも展開する予定です。第129期は5年間にわたる中計1st STAGEの折り返しでしたが、計画の進捗度合はきわめて順調です。



窒素充填装置の納品について

食品分野では内容物の賞味期間を延ばすことがフードロスにつながることから、食品メーカー様からより保存性の高い包装を強く望まれていました。これを受けて当社はかねてより粉状や粒状の内容物を入れるクラフト重包装袋の窒素置換包装と窒素充填装置（製品名「エスバリア」）の開発に取り組んでおりましたが、2025年3月に第1号を納品いたしました。窒素置換装置は、容器内に窒素ガスを導入することで空気などを排出し、酸素濃度を下げていくものです。従来20kg前後の内容物を納める重包装袋では他のガスが混入し、困難とされてきました。これに対して当社は独自の手法で解決し、目標を下回る酸素濃度を達成しました。試作品を2024年10月に開催された東京国際包装展で展示したところ、多くの食品メーカー関係者が高い関心を示されました。今後は他の食品分野のお客様に対しても本商品の仕組みを提供して、市場を開拓してまいります。



株主の皆様へ

現在、中国から安価な樹脂製品の流入が続いており、国内の石油化学メーカーがプラントを縮小する動きを加速させています。当社にとって厳しい事業環境が続いていますが、我々はこれまで長く包装容器の製造を手がけており、非常に多くの技術を蓄積しています。今後もそうした強みをアピールして、シェアを確保してま

いります。おかげさまで第129期は下期に増益を果たし、業績を伸ばすことができました。来たる第130期は当社にとりまして創立90周年の節目の年になります。これまで以上にお客様のニーズに応えて多くの技術をご提供することで、安定した経営を目指してまいります。

株主の皆様には何卒ご理解いただき、これからも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

蓄積してきた強みを活かして、
シェアの拡大を目指す。

代表取締役社長 小野寺 香一



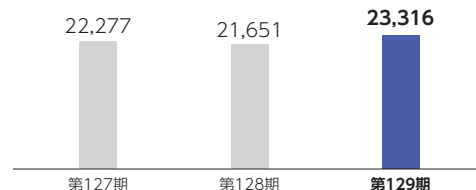
売上高

233億16百万円 (前年同期比 7.7%増)

▶ 売上高について

当社グループの主要事業は、国内の素材産業や農産物の生産動向に影響を受けやすい産業用包装資材の製造販売です。期初時点では賃上げによる個人消費の増加が内需を押し上げると期待されましたが、海外経済減速や物価高が重石となりました。当社グループの売上数量は伸び悩む状況が続きましたが、製品価格改定による単価上昇により、連結売上高は前期比1,664百万増の233億16百万円となりました。

売上高



営業利益

13億77百万円 (前年同期比 34.9%増)

経常利益

16億26百万円 (前年同期比 30.3%増)

親会社株主に帰属する 当期純利益

13億20百万円 (前年同期比 37.2%増)

▶ 利益について

売上数量は伸び悩む状況が続きましたが、製品価格改定による採算の良化や原価抑制に努めた結果、利益は前年に比べ増加しました。

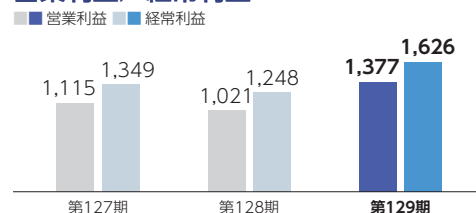
▶ 来期業績予想について

来期につきましては、売上数量を採算確保の上で回復していくことが急務となります。一方で賃上げ、投資設備完成による減価償却費およびメンテナンス費用などの負担が増加し、引き続き利益圧迫要因となることは避けられない見込みです。

当社グループの来期の業績は、売上高24,000百万円（伸長率+2.9%）、営業利益1,330百万円（伸長率△3.5%）、経常利益1,540百万円（伸長率△5.3%）、親会社株主に帰属する当期純利益1,200百万円（伸長率△9.1%）を見込みます。

なお、連結子会社である㈱ネスコにおいて、同社の取引先に対する債権につき期日が経過しても売掛金が入金されない事態となり、取立不能又は取立遅延のおそれが生じております。当該損失の見込額が算定できた時点で速やかにお知らせいたします。

営業利益／経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



総資産

333億84百万円

純資産

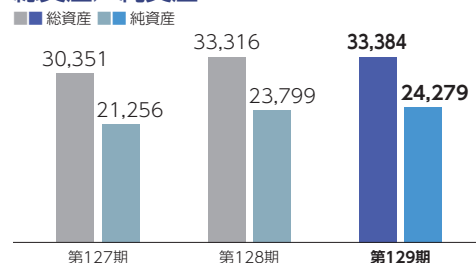
242億79百万円

▶ 資産について

総資産は33,384百万円で、前連結会計年度末に比べて67百万円増加しました。主な増加要因は現金及び預金495百万円、有形固定資産672百万円、投資その他の資産のその他に含まれる長期性預金600百万円および退職給付に係る資産118百万円です。主な減少要因は受取手形及び売掛金172百万円および投資有価証券1,562百万円です。

純資産合計は24,279百万円で、前連結会計年度末に比べて479百万円増加しました。主な増加要因は利益剰余金1,142百万円および為替換算調整勘定543百万円です。主な減少要因はその他有価証券評価差額金1,176百万円です。

総資産／純資産



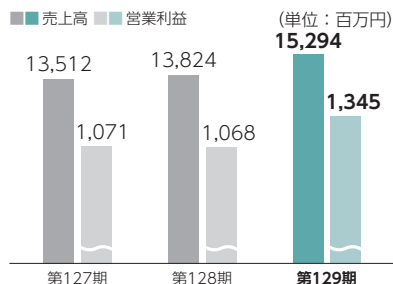
重包装袋



当社のクラフト紙袋の売上数量は前期比1.6%の増加となりました。業界の傾向と同じく、その他鉱産物、セメント、プラスター、その他の用途が減少し、米麦、砂糖・甘味、その他食品の用途は増加しました。合成樹脂、飼料、農水産物、化学薬品の用途は、業界の傾向に反して増加に転じました。

タイ昭和パックス(株)のクラフト紙袋の売上数量は、主要取引先の増産もあり、前期比10.1%の増加となりました。九州紙工(株)はセメント用途が減少しましたが、塩および米麦用途で増注となり、前期比5.0%の増加となりました。山陰製袋工業(株)は米麦袋が減少しましたが、一般袋で一部ユーザーの増注もあり、売上数量は前期比1.7%の増加となりました。

重包装袋の主原材料であるクラフト紙の価格は、原燃料費上昇によるコスト高を理由として値上がりした後、高止まりしています。

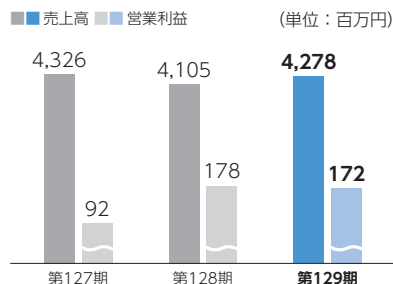


フィルム製品



当社のフィルム製品の売上数量は、業界の傾向と同様に産業用、農業用ともに減少し、合計では前期比1.0%の減少となりました。産業用ではストレッチフィルム「エスラップ」、アスベスト隔離シート、ポリスチレンフィルム「エスクレア」が増加しましたが、熱収縮包装フィルム「エスタイト」は減少しました。農業用では「バーナルハウス」等ハウスフィルムで微増となりましたが、牧草用途で微減となりました。

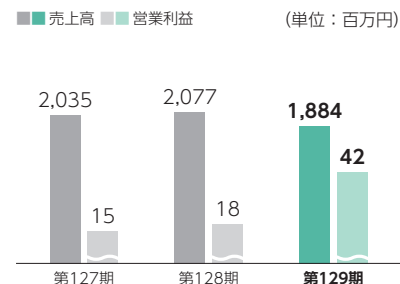
主原材料であるポリエチレン樹脂の価格は、ナフサ価格の高騰による値上げに加えて物流費など諸経費の上昇によるコスト高を理由に値上がり後、高止まりしています。



コンテナ



当社のフレキシブルコンテナ「エルコン」の売上数量は、米麦用途で大きく減少し、前期比3.0%の減少となりました。液体輸送用1,000ℓポリエチレンバッグ「エスキューブ」は新規用途が増注となり、前期比27.1%の増加となりました。ドライコンテナ用インナーバッグ「バルコン」は前期比28.5%の大幅減少となりました。



会社概要 (2025年3月31日現在)

- 設立
1935年12月20日
- 資本金
6億4,050万円
- 主要な事業内容
クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売
- 主要な事業所
本 社 〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町2番12号
電話 03(3269)5111

支 店 大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)
工 場 東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、
盛岡(岩手)、掛川(静岡)

子 会 社 九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、
山陰製袋工業(島根)、山陰パック(島根)、
昭友商事(東京)、タイ昭和パックス(タイ王国)

当社の株式の状況 (2025年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 13,450,000株
- 発行済株式の総数 4,450,000株
- 株主数 1,415名
- 大株主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社サンエー化研	846	19.3
新生紙パルプ商事株式会社	837	19.1
株式会社三菱UFJ銀行	135	3.1
特種東海製紙株式会社	130	3.0
INTERACTIVE BROKERS LLC	118	2.7
株式会社みずほ銀行	80	1.8
農林中央金庫	75	1.7
株式会社鹿児島銀行	70	1.6
昭和パックス社員持株会	68	1.6
王子ホールディングス株式会社	50	1.1
みずほ信託銀行株式会社	50	1.1
明治安田生命保険相互会社	50	1.1
中越パルプ工業株式会社	50	1.1

(注)当社は、自己株式59,994株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除し、計算しております。

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 期末配当金支払 3月31日
- 株主確定日 3月31日
- 中間配当金支払 9月30日
- 株主確定日 9月30日
- 基準日 定時株主総会については、3月31日。その他定款に定めがある場合のほか、必要があるときはあらかじめ公告する一定の日。
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部
- お取扱窓口 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。
- 特別口座管理機関 みずほ信託銀行
- お取扱店 フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)
- 未払配当金のみずほ信託銀行 本店および全国各支店
- お支払のみずほ銀行 本店および全国各支店
- 単元株式数 100株
- 公告方法 電子公告により、当社ホームページに掲載。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載。

役員 (取締役および監査役) (2025年6月27日現在)

- 代表取締役社長 小野寺 香一 生産本部長
- 取締役 湯 口 毅 営業本部長
- 取締役 清水 貴雄 管理本部長
- 取締役 多久 秀臣
- 取締役 花井 謙介
- 取締役 大 舘 諭
- 取締役 赤木 鉄朗
- 常勤監査役 上河 義章
- 監査役 井上 眞樹夫 新生紙パルプ商事(株) 常勤監査役
- 監査役 佐藤 誠一 (株)サンエー化研 常勤監査役
- ※大舘諭氏および赤木鉄朗氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- ※井上眞樹夫氏および佐藤誠一氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

